

第十八章 呼応[一致]

レクチャー1

「呼応[一致]」とは。

「呼応[一致]」とは、主語の人称や数によって、(述語)動詞の形が変化することを言います。

簡単な例をあげてみましょう。以下の英文の()ですが、どちらが正しいかわかりますか？

- ① Tom (has・have) two beautiful boys.
トムには立派な息子が2人いる
- ② Tom and Mary (has・have) two beautiful boys.
トムとメアリーには立派な息子が2人いる

正解は①は has、②は have です。選択の基準はそれぞれの英文の主語でした。①は Tom という3人称単数の名詞に呼応[一致]して has が正しく、②は Tom and Mary という複数を示す名詞に呼応[一致]して have が正しいわけです。

この「呼応[一致]」が語法問題などで狙われるポイントは、以下の3つです。

- ①主語は複数なのに、述語動詞は例外的に単数扱いになるもの
- ②逆に主語は単数形なのに、述語動詞が複数扱いになるもの
- ③2つの主語が接続詞で結ばれたとき、述語動詞はどちらの主語に呼応[一致]するか

ではこれらを中心に、さっそく「呼応[一致]」のポイントを整理していくことにしましょう。

形は複数形だが単数扱いになるもの。

複数名詞が主語の場合、原則として複数扱いですが、以下の場合には、形は複数形なのに「単数扱い(の名詞)」となります。したがって当然ですが、動詞には3人称単数現在のsがついたり、be動詞の場合はis[was]となります。

(1)複数形の学科名・国名・書名などが1つのものをさす場合。

(ex) Mathematics is the only subject he is not good at.

数学は彼が苦手とする唯一の教科だ

[学科名]

The United States exports a lot of grain to Japan.

アメリカ合衆国は日本に大量の穀物を輸出している

[国名]

The London Times is sold at the news stand in the station.

『ロンドンタイムズ』紙は、駅の売店で売っている

[新聞名]

「学問[学科]名」には以下のようなものがあります。

athletics 「体育理論」「運動競技」	gymnastics 「体育」	phonemics 「音素論」
economics 「経済学」	harmonics 「和声学」	physics 「物理学」
electronics 「電子工学」	linguistics 「言語学」	politics 「政治学」
esthetics 「美学」	mechanics 「機械力学」	statics 「静力学」
ethics 「倫理学」	metaphysics 「形而上学」	statistics 「統計学」
dietetics 「栄養学」	optics 「光学」	tactics 「用兵学」
dynamics 「力学」	acoustics 「音響学」	

Ⓢ acoustics が「(行動などの)音響効果」という意味になる場合には、複数扱いになる。

(2)時間・距離・金額・重量などを1つの(まとまった)単位としてみる場合。

(ex) Ten months is too short to learn a foreign language.

外国語を学ぶのに10ヶ月は短すぎる

20 dollars is enough money to buy the CD.

20ドルはそのCDを買うのに十分なお金だ

以下の英文では「時間(5年)」を1つの単位(まとまり)として見ているわけではないので、Five years は複数扱いとなっています。

(ex) Five years have passed since my father died.
父が死んで5年になる

レクチャー3

部分を表す主語の呼応[一致]。

以下のような「部分を表す主語」の場合、「A」の部分にくる名詞が複数形であればその主語は「複数扱い」、逆に「A」の部分にくる名詞が単数形であればその主語は「単数扱い」となります。

most of A	「Aの大部分」	all of A	「Aのすべて」
half of A	「Aの半分」	two-thirds of A	「Aの3分の2」

【その他】 some[any] of A, the rest of A, part of A など。

具体例をあげてみましょう。

① Most of the students in our high school go (on) to college.
うちの高校の生徒の大部分は大学に進学する

② Most of the water flows into the Pacific in the end.
水の大部分は、最終的に太平洋に流れ込みます

①の場合、Aにあたるのが the students と複数名詞なので、「主語＝複数」と判断され、動詞は go で受けています。

②の場合、Aにあたるのが the water と単数名詞なので「主語＝単数」と判断され、動詞は(3単現の s のついた)flows で受けています。

接続詞で結ばれた2つの主語の呼応。

(1) 「A and B」の呼応。

主語が「A and B」という形の場合、一般的にはそれは「複数」と判断されますね。

(ex) John and I are brothers. ジョンと私は兄弟です
 ㊦ ㊧

しかし、and で結ばれた2つの主語が、以下のような場合は「単数扱い」となります。

- ①それ全体で1つのまとまったものや概念を示すとき
- ②それが同一の人(又は物)を表すとき

①の例をあげてみましょう。

・ **curry and rice** カレーライス

(ex) Curry and rice was served at the meal.
 食事ではカレーライスが出された

・ **bread and butter** バターを塗ったパン

(ex) Bread and butter was my usual breakfast.
 バターを塗ったパンが私のいつもの朝食だ

・ **needle and thread** 糸を通した針

(ex) A needle and thread is needed to repair it.
 それを修繕するには、糸を通した針が必要だ

②の例をあげてみましょう。

(ex) The statesman and writer is still staying in France.
 政治家であり作家でもあるその人は、まだフランスに住んでいる

上の英文の主語が「同一の人」であることを示しているヒントは、冠詞の The です。the が1つしかありません。ということは

The statesman and writer

で一人の人を表していることが分かるわけです。
ちなみにしたの英文の場合はどうでしょう？

(ex) The statesman and the writer are still staying in France.

その政治家とその作家はまだフランスに住んでいる

この英文の場合には the が2つありますね。ということは statesman と writer は別人であることが分かるのです。もちろん「主語＝複数」となり、動詞は are で受けています。

ちなみに「both A and B」が主語の場合は、常に「複数扱い」となります。

(ex) Both his wife and he are Korean.

彼の奥さんも彼も韓国人だ

(2) 「A or B」などの呼応。

以下の英文は意味は同じです。では()内のどちらかが正しいかわかりますか？

- ① Three boys or one man (is ・ are) needed.
- ② One man or three boys (is ・ are) needed.

正解は①は is、②は are です。

実は「A or B」が全体で主語になった場合、動詞は全て「B」に呼応[一致]するというルールがあるのです。したがって①は「B = one man」なので is、②は「B = three boys」なので are が正解になるというわけです。このように、それが主語になったとき、動詞が「B」に呼応[一致]する表現として、以下のようなものがあります。

- ① either A or B 「AかBどちらか一方」
- ② neither A nor B 「AもBもどちらも～ない」
- ③ not A but B 「AではなくてB」
- ④ not only A but also B 「AだけでなくBもまた」

=B as well as A

要注意は as well as で、not only～と意味は同じなのに「A」と「B」の位置が逆です。

(ex) Not only Dan but also his sons have been disappointed.

=His sons as well as Dan have been disappointed.

ダンだけでなく彼の息子もまたがっかりしている

會これらは厳密に定義するなら、「動詞に近いほうの名詞」に合わせるのである。したがって疑問文では「A」に合わせることになる。

(ex) Is either he or you wrong?

彼と君のどちらが間違っているのだ

レクチャー5

不定代名詞の呼応。

(1) each, every+単数名詞, either, neither。

以下の英文、()内のどちらかが正しいか分かりますか？

Each (was ・ were) dressed beautifully.

それぞれ(の人)は美しく着飾っていた

正解は was です。each が代名詞として用いられたときは(意味的には複数を表すのだが)「単数扱い」となります。これは every+単数名詞、either neither も同じです。

頭文字がすべて「e」なので覚えやすいですね(neitherもeitherの否定と考えれば)。またこれらが形容詞的に使われる場合、直後の名詞は単数名詞となります。

(ex) Each boy and each girl has to hand in the document.

男子も女子もその書類を提出しなければならない

Either plan is not possible to realize.

どちらの計画も実現可能ではない

Neither story was interesting.

どちらの話もおもしろくなかった

Every boy and girl in the school was well trained.

その学校の生徒たちはよく訓練されていた

◎上例のように、every(each) のかかる名詞がandで結ばれていたとしても、単数扱いに変わりはない。

上例でも each、either、neither、every が修飾しているそれぞれの名詞(boy, girl, plan, story)は、全て単数名詞ですね。

そして上例でわかるように、これも「単数扱い」となります(動詞が has, is[was] で受けている)。

(2) both。

both が代名詞として「両方」という意味になる場合、both は「複数扱い」です。

(ex) Both are still alive.

2人ともまだ生きている

both (of the) A と、後ろに名詞をとる場合も「A」は複数名詞が来ます。

(ex) There are some trees on both sides of the street.

通りの両側には木が植わっている

both A は each[either] A でも言い換えられますが、each[either]の場合、「A」には単数名詞が来るのでしたね。

= There are some trees on each[either] side of the street.

(3) all。

all の場合、可算名詞も不可算名詞も表すことができるので注意が必要です。つまり all 主語の場合、

① all の意味するものが不可算名詞の場合は、all は「単数扱い」。

(ex) All is lost[over].

万事休す

All is well that ends well.

終わり良ければ全てよし

All you have to do is do your best.

君は全力を出しさえすればいい

② all の意味するものが可算名詞の場合は、all は「複数扱い」。

(ex) All were angry in the room.

全員が部屋の中で怒っていた

all が形容詞的に用いられる場合は、後ろにくる名詞次第となります。
つまり、

①その後の名詞が複数名詞なら all+名詞は「複数扱い」。

(ex) All the students are industrious.

その学生たちはみんな勤勉だ

②その後の名詞が単数名詞なら all+名詞は「単数扱い」。

(ex) All natural cheese is made from milk.

全てのナチュラルチーズはミルクから作られる

レクチャー6

その他の呼応。

(1) 「many a + 単数名詞」。

「many a + 単数名詞」は、「many + 複数名詞」の強調表現で、意味的には当然「複数」なのですが、(動詞直前に来る)単数名詞に引きずられて、「単数扱い」となります。例文で確認してみましょう。

(ex) Many a bird was in the park.

たくさんの鳥が公園にいた

もちろん上の英文は、以下のように「many + 複数名詞」を用いて表現することも可能です。

=Many birds were in the park.

(2) 「more than one + 単数名詞」。

「more than one + 単数名詞」は「いくつもの[いく人もの]～」という意味で、当然「複数」を表すのですが、これも(動詞直前に来る)単数名詞に引きずられて「単数扱い」となります。

(ex) More than one employee has been fired.

いく人もの従業員が解雇された

(3) 「a number of A」 と 「the number of A」。

「a number of A」は「数多くのA」という意味で「複数扱い」になりますが、「the number of A」は「Aの数」という意味で「単数扱い」になります。

(ex) A number of people are fond of playing baseball.

多くの人々は野球をするのが好きだ

The number of people who smoke has decreased.

喫煙者の数は減少している

(4) 「a pair[set・list など] of + 複数名詞」。

「a pair[set・list など] of + 複数名詞」の場合、動詞は「a pair[set···]」に呼応[一致]し、「単数扱い」となります。

(ex) A new pair of glasses is worn by Mr. Newman.

ニューマン氏は新しい眼鏡をかけている

Ⓢ wear - wore - worn で「身につける」。

もちろん以下の例文の場合は、two pairs に動詞は呼応[一致]しますから(「複数扱い」となり) are になっています。

(ex) Two pairs of new socks were what he needed.

2足の新しい靴下が彼に必要なものだった

(5)集合名詞。

集合名詞(いくつかの同種のもの集合体を指す名詞)については、以下のようなルールがあります。

① 集合名詞が1つの集合体を表す場合は「単数扱い」。

(ex) The class is too large to be taught by a single teacher.

そのクラスは1人の教師で教えるには大きすぎる

His family is a large family.

彼の家族は大家族です

The audience was very large at the concert.

そのコンサートでは、聴衆が沢山いた

② 個々の構成員を指す場合は「複数扱い」。☞語法問題ではこちらが頻出。

(ex) The class were divided in their opinions.

クラスは意見が二分した

His family are all early risers.

彼の家族はみんな早起きです

③ 常に複数扱いにする集合名詞。 ☞下線語は頻出。

(ex) police 「警察」「警官達」 clergy 「聖職者達」

cattle 「(人に飼われている)牛」 poultry 「(アヒル・鶏・七面鳥等の)家禽類」

(6)動名詞、不定詞が主語の場合。

動名詞や不定詞が文の主語になった場合は「単数扱い」となります。

(ex) To see is to believe.

百聞は一見にしかず

Collecting old coins is my hobby.

古銭収集が私の趣味だ

(7) 「There be動詞[又は一般動詞] + ㊦」。

「There be動詞[一般動詞] + ㊦」の構文は、動詞は「後続する㊦に呼応[一致]」します。つまり

①be[又は一般動詞]の後の㊦(名詞)が単数名詞なら be[又は一般動詞]は「単数扱扱い」

②be[又は一般動詞]の後の㊦(名詞)が単数名詞なら be[又は一般動詞]は「複数扱扱い」

となります。

(ex) There is a book on the table.

テーブルの上に本が一冊ある

上の英文でも、主語が a book なので、直前の be動詞は is になってます。

(8) 「the + 形容詞[分詞]」。

「the + 形容詞[分詞]」は「(人を表す)複数名詞化」することがあります。たとえば the rich は「豊かな人々」という意味で rich people と同じ意味になります。このような形容詞には以下のようなものがあります。

ablebodied「体の丈夫な」	brave「勇敢な」	dead「死んだ」	deaf「耳の間こえない」
disabled「体の不自由な」	dumb「口のきけない」	elderly「年輩の」	guilty「有罪の」
homeless「家を持たない」	injured「負傷した」	innocent「無実の」	living「生きている」
old「年をとった」	poor「貧乏な」	rich「金持ちの」	sick「病気の」
unemployed「失業した」	wealthy「裕福な」	wise「賢い」	wounded「負傷した」
young「若い」	ど。		

したがってその場合「複数扱扱い」となります。

(ex) The rich sometimes despise the poor.

豊かな人々はしばしば貧乏人を軽蔑する

それから the British[英人], the Dutch[オランダ人] など、「the+国籍を表す形容詞」についても、同じように国民全体を表し、「複数扱い」となります。

(ex) The Japanese are said to be a diligent people.

日本人は勤勉な国民だと言われている

會ただし、以下については「単数の人」「複数の人」どちらも指す可能性がある。つまり「特定の被告[故人…]」を指す場合には(単数の人を表している)、「単数扱い」になる。

the accused「被告」 the deceased「故人」 the pursued「追跡されている人」

(9)関係代名詞が主語[主格]の場合。

関係代名詞が主格の場合、動詞の人称と数は「先行詞に呼応[一致]」します。

つまり先行詞が単数名詞なら「単数扱い」、複数名詞なら「複数扱い」となります。以下の例文は、波線部分が先行詞です。

(ex) Anything that is needed can be taken with you.

何でも必要なものは持って行ってよろしい

One of the guests who were present at the party tried to talk to her.

そのパーティ出席していた客の一人が彼女話掛けようとした

Jane is the only one of my friends that is able to speak English.

ジェーンは私の友人のうちで英語を話せる唯一の人です

「呼応[一致]」の演習問題

Q : () の中に入れるのに最も適当なものを選びなさい。

(1) Economics (① is ② are) one of my favorite subjects.

【解答&解説】 ① 「学問名」は単数扱い。economics は「経済学」。

(2) Physics (① is ② are) an elective subject.

【解答&解説】 ① 「学問名」は単数扱い。physics は「物理学」。

(3) The United States (① is ② are) much larger than our country.

【解答&解説】 ① 「国名」は単数扱い。The United States は「アメリカ合衆国」。

(4) Two hours (① is ② are) a long time to wait for someone.

【解答&解説】 ① two hours を1つのまとまり(単位)としてみなしているので「単数扱い」になる。訳は「二時間は人を待つには長い時間だ」。

(5) 42.195km (① is ② are) a great distance.

【解答&解説】 ① 42.195キロを1つのまとまり[単位]としてみなしているので「単数扱い」になる。

(6) Half of the tomatoes (① is ② are) rotten.

【解答&解説】 ② half of の後ろの名詞が複数名詞なので、「複数扱い」となる。

(7) Two-fifth of the building (① was ② were) destroyed by the earthquake.

【解答&解説】 ① two-fifth of の後ろの名詞が単数名詞なので「単数扱い」となる。

(8) Most of the workers (① was ② were) against the proportion their manager offered.

【解答&解説】 ② most of の後ろの名詞が複数名詞なので「複数扱い」となる。

(9) He and I (① is ② are) students of this high school.

【解答&解説】 ② He and I は複数を表している(we で言い換えられる)ので「複数扱い」となる。

(10) Ham and eggs (① is ② are) a familiar dish at breakfast in America.

【解答&解説】 ① ham and eggs で1つのものを表している所以「単数扱い」となる。

(11) Toast and butter with a cup of tea (① is ② are) my favorite breakfast.

【解答&解説】 ① toast and butter で1つのものを表している所以「単数扱い」となる。

(12) All work and no play (① make ② makes) Jack a dull boy.

【解答&解説】 ② all work and no play で、「勉強ばかりで遊ばないこと」という1つの概念を表しているので「単数扱い」となる。
直訳は「勉強ばかりで遊ばないことはジャックをダメな子にする」だが、これは、要するに「よく遊びよく学べ」という日本の格言と同意の諺(ことわざ)。

(13) Both my brother and I (① was ② were) used to being scolded by father.

【解答&解説】 ② both A and B は「複数扱い」。

(14) Either she or I (① is ② am ③ are) at fault.

【解答&解説】 ② either A or B は、Bに呼応[一致]する。

(15) Neither he nor his wife (① has ② have) arrived.

【解答&解説】 ① neither A nor B も、Bに呼応(一致)する。

(16) Every (① student of this school is ② students of this school are) polite.

【解答&解説】 ① every の後には単数名詞が来る。

(17) The black and white cat (① is ② are) my pet.

【解答&解説】 ① the が1つしかない点に注目する。the black and white cat で(「白と黒のブチの猫」という)一匹の猫を表している。

(18) Not only the students but also the teacher (① was ② were) deceived.

【解答&解説】 ① not only A but also B も、Bに呼応[一致]する。

(19) The students as well as the teacher (① is ② are) laughing.

【解答&解説】 ② A as well as B の場合は、Aに呼応[一致]する。

(20) Many a (① man likes ② men like) to have a drink before dinner.

【解答&解説】 ① many a の後には単数名詞が来る。そして many a 単数名詞は(意味的には複数でも)単数扱いとなる。

(21) More than one child (① was ② were) involved in the accident.

【解答&解説】 ① more than one+単数名詞は「単数扱い」。

(22) A number of young girls (① was ② were) crazy about rock music.

【解答&解説】 ② a number of～ は「数多くの～」という意味で「複数扱い」。この英文の主語は young girls になる。

(23) The number of children who want to play soccer (① is ② are) larger than expected.

【解答&解説】 ① the number of ～ は「～の数」という意味で「単数扱い」。
この英文の主語は the number になる。

(24) A pair of scissors (① is ② are) needed to do the work.

【解答&解説】 ① a pair of ～ は、a pair に動詞は呼応[一致]し、「単数扱い」。

(25) I forgot brushing my teeth this morning, so my teeth (① is ② are) dirty.

【解答&解説】 ② teeth は tooth の複数形なので、動詞は are で受ける。

(26) My family (① is ② are) a large family.

【解答&解説】 ① 集合名詞は、それが1つの集合体を表す場合には「単数扱い」。

(27) My family (① is ② are) all early risers.

【解答&解説】 ② 集合名詞が、その個々の構成員を指す[に焦点を当てている]場合には「複数扱い」。

(28) There (① is ② are) a large number of the unemployed in this town.

【解答&解説】②「there be動詞+㊟」構文においては、be動詞の後ろの㊟(名詞)が単数名詞であれば、be動詞はis[was]と単数扱いになり、㊟(名詞)が複数名詞であれば、be動詞はare[were]と複数扱いになる。

本問では(a large number of) the employedが㊟。「the+形容詞」は「(人を表す)複数名詞化」することがある。the employedは「失業者」という意味で、employed peopleと同じ。したがって複数扱いの名詞と見て、動詞はareで受ける。

(29) The beautiful (① is ② are) no always the best wives.

【解答&解説】② the beautiful は「美しい人(女性)達」という意味で「複数扱い」。

(30) Nobody (① knows ② know) what will happen tomorrow.

【解答&解説】① nobody は「単数扱い」。